

# 元気な鈴鹿、そのわけは・・・

齊藤幸平さん鈴鹿講演会実行委員会

吉田 一男（三重県 鈴鹿市在住）

## はじめに

最近、鈴鹿市以外の方から次のような声をいただきました。

「鈴鹿ではなぜいつも多くの参加者が得られるの？」

「イベントの主催団体が多彩でテーマも多彩。いったいどんな取り組みがされているの？」

「鈴鹿では多くのリーダーがそれぞれのテーマを追求するとともに、連携・協力しあってイベントに取り組んでいるように見えるが、その秘訣は？」

こんな声を聞かせていただくとは、鈴鹿市民として誠に光栄です。

三重県の中北部に位置する人口約20万の鈴鹿市は、自動車産業やモータースポーツが盛んで、鈴鹿市の名前は全国に知られているなど、とても恵まれています。この他にも、海や山などの自然に恵まれていたり、お茶やサツキ、伝統的工芸品などの特産品があったり、多くの魅力や個性があります。さらに近年では、国際交流や市民文化の向上に力を入れるなど、あらゆる面からの発展を遂げ、三重県の人口第3位にあたり、津、四日市に並ぶ県内主要都市となっています。

（鈴鹿市観光ガイドより）

こんな鈴鹿市では様々な市民団体が活動しています。「鈴鹿革新懇」「9条の会すずか」

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」「麦わら帽子の会」「年金者組合鈴鹿支部」「新日本婦人の会鈴鹿支部」「鈴鹿市原水協」「秘密保護法と共謀罪に反対する

鈴鹿市民の会」（略称：市民の会）」・・・それぞれ緩やかに連携しながら独自に活動していますが、ここ数年の大きな取り組みは、「市民の会」が実行委員会を呼びかけることが多くなっています。また、「フードパントリーに取り組みたいね」と誰かが言えば協力したり、児童館やコミュニティバスの署名活動なども協力して取り組んだりしています。

## 大きなイベント成功の秘訣は？

さて、秘訣は何でしょう？

自分たちだけの運動の殻に閉じこもらず、たえず幅広い市民の要求や運動に耳を傾けていることでしょうか？

「れいわ新選組」に関わっている人たちや、日常的にお付き合いのない団体・グループの活動に目を向け、参加して学び交流することも大事だと思います。

2021年9月12日に「イスのサンケイホール鈴鹿（鈴鹿市民会館）」で齊藤幸平さん鈴鹿

齊藤幸平さん講演会チラシ  
(二〇二一年九月十二日)

講演会を成功させようと企画し、2021年3月以来、これまでに実行委員会を6回開きました。

残念ながらコロナ第5波のあおりを受けて、講演会は1年間延期となりましたが、その取り組みをなぞる中で、先の質問への答えを私なりに探っていきたいと思います。

### 最初は小出裕章さんの原発講演会

2012年11月、福島原発事故を受けて鈴鹿革新懇が小出裕章さんの講演会を開きました。鈴鹿国際大学ホールに300名が集まりました。初めての経験でしたが、このとき、鈴鹿でもやればできるという自信が芽生えました。

次に2014年7月、落合恵子さんを招いて講演会をしました。1300名の会場です。どうなるかとドキドキしながら当日を迎えましたが、会場はほぼ満席の聴衆で埋まりました。

その後2016年小林節さん、2018年望月衣塑子さん、2019年前川喜平さん・・・と講演会を計画しました。会場の大きさは300名～1300名と差がありますが、いずれも満員の参加者を得ることができ、成功ではなかったかと思えます。

### その時々のお名人に大胆に当たる

小出さん、落合さんの時は「脱原発」がテーマでした。小林節さんは「戦争法」「野党共闘」、そして東京新聞記者の望月さん、前文



立見席もできた前川喜平さん後援会  
(2019年6月23日)

部科学次官の前川さん・・・。いずれも「時の人」。

えっ、こんな有名な人が鈴鹿に来てくれるの？ 半信半疑で突撃体当たり。ありがたいことに、どの方も私たちの要請にこたえてくれました。「あの人の話をぜひ聞いてみたい」と主催者が思うこと、これが何よりの原動力です。

### 多彩な顔ぶれの実行委員会

小出さんの時以外は、すべて「実行委員会」を作って取り組みました。「この指とまれ」方式で、だれでも参加できます。友だちが友だちに声をかけ、毎回20人ぐらいの実行委員会ができました。

ちなみに今回の斎藤幸平さん実行委員会のメンバーは25人。鈴鹿市議会議員、元新聞記者、元教員、市民運動リーダー、環境ボランティア、子育てママ、現役労働者、年金生活者・・・などなど。

第1回実行委員会(2021年3月7日)の様々を実況風に・・・。

初参加の方が5人もいました。実行委員会が若返りました。自己紹介の中で参加の動機が語られました。

「『NHKの100分de名著』で斎藤幸平さんを知った。」「『人新世』という言葉に興味を覚えた」「望月さんや前川さんの講演会に参加し勉強になった。今回は実行委員としてかかわりたい」「白子で資本論の学習会に参加している。そこで紹介された」「環境問題に関心がある。NHKスペシャルでも2030年が大分岐だと言っていた」「ずっと環境ボランティアをしている。今が分かれ際だと思う」

「講演会の準備にかかわるのははじめて。SDGs、どうとらえるか」「地球は私たちの世代が食いつぶすんだなあ」と30代のころから思っていた。何とかしなくちゃ」「谷口たかひさんの講演を聞いてカルチャーショックを受けた。気候危機を食い止めたい」「児童館署名14000筆集まった。100分de名著に感銘を受けた」などなど。

(「第1回実行委員会の報告」より)

これを見てもわかるように、実行委員は「自分が聞きたい」という思いを持って集まっています。そして年齢も経歴も職業も多彩。異文化、異業種の人々との語らいは実に楽しい。それが実行委員会の魅力ではないかと思えます。

### 核になる人々がいる

実行委員会呼びかけの中心になっているのは、「秘密保護法と共謀罪に反対する鈴鹿市民の会」（略称：市民の会）です。2013年12月に結成され、毎月6日の駅前アクション、2か月に1回の「弁護士さんと話そうカフェ」などに取り組んでいます。今回もまずはここで企画が話し合われました。

「久しぶりに講演会をやりたいねえ。今度は誰がいい?」「落合恵子さん、前川喜平さん、望月衣塑子さんのうちの誰かに、もう一度来てもらいたい」「落合さんは最近とみに連絡が取りにくい」「楽しいのがいいねえ。松元ヒロさんとかニュースペーパーとか」「落語家の立川談四楼さんもいいかも」・・・そんな中で、「『人新世の資本論』が売れている。著者の斉藤幸平さんに来てもらってはどうか。」「それはいいねえ。気候変動は若い人に関心が高い」「実現すればこれまでにない企画になるね。」・・・こうしてアウトラインが決まり、第1回実行委員会に向けて呼びかけが始まりました。

### それぞれの分野で活動している人や団体の協力

「市民の会」に限らず、鈴鹿市には各分野で活動する団体があり、それを牽引するリーダーがいます。先の鈴鹿革新懇のほか、9条の会すずか、鈴鹿原水協、鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会、麦わら帽子の会、年金者組合鈴鹿支部、新日本婦人の会鈴鹿支部、鈴鹿労連・・・。

大きな講演会や集会をするときはこうした人々や団体がお互いに協力し合って、イベントを盛り上げます。また「立憲民主党」の芝博一参院議員後援会、中川正春衆院議員事務

所などにもチケットの普及に協力をお願いしています。

### 合言葉は「楽しくなくっちゃ」

「うちの地域では限られた人が背伸びしながら取り組みを広げています。頑張っているのですが、なかなか・・・」との悩みを聞きました。これまで活動を担ってきた人が高齢化し、跡を継ぐ人がいないという声もよく出されます。高齢化という点では鈴鹿も同じです。だからあまり無理はしません。無理をしないことが長続きの秘訣かも知れません。それと、できるだけ若い人と一緒に活動するよう心がけています。鈴鹿に引っ越して来たら児童館がない、だったら市に要求しようと署名活動にとりくんでいる子育てママたちがいます。毎月一回のフードパントリーに誠実に取り組んでいる若い人もいます。「れいわ新選組」や気候変動に熱心にかかわっている人たちがいます。「人の役に立つことをしたい」とチラシ配りを手伝ってくれる若者がいます。「世の中のことをもっと知りたい」と食欲に学習会に参加する若者がいます。

若い人たちにとって活動することは義務ではなくて楽しみなのです。また年配者にとっても、こうした若い人たちと一緒に活動することで気持ちも若返ります。

どうしたらみんなが楽しく参加してくれるだろうと考えることは、企画するものにとっては楽しいことです。よく勉強し企画力にすぐれたスタッフがいる、このことも忘れてはなりません。

### まとめにかえて

さて、「鈴鹿ではなぜいつも多くの参加者が得られるのか」の答えは見たでしょうか？大型講演会の取り組みに関してまとめれば、

- ① 思い切って有名人を招く。
- ② 広く実行委員を募る。必ず若い人を入れる。
- ③ 核となる呼びかけ人がいる。
- ④ 幅広い団体の協力を得る。

- ⑤ 楽しさを追求する。
- ⑥ 企画力に優れたスタッフの存在。

以上の6点ぐらいでしょうか。

冒頭にも書いたように、自分たちだけの運動の殻に閉じこもらず、たえず幅広い市民の要求や運動に耳を傾けることは忘れてはなりません。日常적으로付き合いのない団体やグループの活動に目を向け、参加して学び交流することも大事です。

ところで私自身は、残された人生を自分の好きなことをして過ごしたいと思っています。スキー、卓球、読書、DVD鑑賞。一日中これらを思う存分楽しめたら、もう思い残すことはない。でもそれだけでは何かが足りない。自分が世の中の進歩に役立っているという喜びがないと、趣味を楽しむのもむなしいものです。両者のバランスでしょうかねえ。

人生を楽しく！

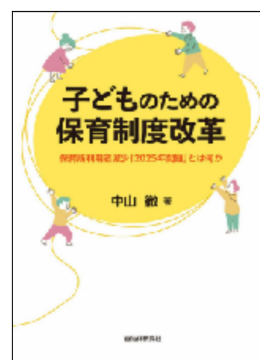
さあみなさん、ごいっしょに。

## 自治体研究社の新刊本

★申込みはTEL又はFAXで東海自治体問題研究所へ（当所会員は1割引き、郵送料は無料）

### 子どものための保育制度改革 保育所利用者減少「2025年問題」とは何か

中山 徹（著）  
¥1,320（税込）  
2021年9月16日



#### 書籍の内容

#### 2025年、保育所利用者は減少に転じる

2013年から待機児童解消が政策的に進められ、2015年には子ども・子育て支援新制度が始まり、2019年から教育・保育無償化もスタートした。2010年代の10年間は、保育制度、保育施策それと連動して保育所などが大きく変化した。そして、今、保育所、幼稚園、認定子ども園は岐路に立っている。質を犠牲にした量の拡大、行政責任の後退等、だれのための制度改革だったのか。2025年、保育所利用者は減少に転じる、ここで「子どものため」の保育を真剣に考えなくてはいけない。保育環境の改善に舵を切り本当の少子化対策の必要性を説く。